

文教厚生常任委員会調査報告書

(平成24年3月定例会)

1 調査事件

民俗芸能の保存・伝承について

2 調査目的

民俗芸能保存会のなかには、時代の環境変化に伴い存続困難なところも出てきている。民俗芸能は、地域住民相互の絆を深め、郷土の歴史理解と愛着を育てる役割がある。次世代へ保存・伝承するためには、どうあるべきか調査することとした。

3 調査経過

平成23年 9月 7日 (会期中)
平成23年 9月15日 (会期中)
平成23年 9月26日 社会教育課からの聞き取り
平成23年10月12日 庄内町民俗芸能保存伝承協議会長からの聞き取り
平成23年10月17日
平成23年10月21日～10月31日まで アンケート調査実施
平成23年10月27日
平成23年11月 7日 第一公民館で映像記録の確認
平成23年11月14日
平成23年11月25日 (協議会)
平成23年11月28日
平成23年12月14日 (会期中)
平成23年12月20日 (会期中)
平成24年 1月12日 遊佐町へ視察
平成24年 1月16日 (協議会)
平成24年 1月24日
平成24年 2月 7日
平成24年 2月15日

4 調査結果

[現況]

民俗芸能の保存伝承を調査するにあたり、町内の保存会の取りまとめ組織である「庄内町民俗芸能保存伝承協議会」より協力をいただき、各保存会からアンケート調査を実施した。(資料1、2参照)

(1) 庄内町民俗芸能保存伝承協議会について

平成18年に「余目町民俗芸能保存伝承振興会」と「立川町伝統芸能連絡会」の両保存会が合併し「庄内町民俗芸能保存伝承協議会」が発足した。

「庄内町民俗芸能保存伝承協議会」の構成団体数は、平成23年8月現在32保存会があり、その内28保存会が活動を継続しており4保存会が活動休止状態である。

現在活動している保存会を地区別に分けると、第一学区は3保存会、第二学区は4保存会、第三学区は4保存会、第四学区は5保存会、狩川地区は5保存会、清川地区は7保存会となっている。なお、茗荷瀬神楽と四ヶ村獅子踊は町の無形民俗文化財に指定されている。

合併時は運営資金がなかったため、各保存会から年会費として5,000円の徴収を行い運営にあたった。平成21年度に協議会に委員会を発足して「民俗芸能マップづくり」事業を実施し、ポスターは各公共施設等へ配布し、同様の下敷きは全戸配布した。また、平成23年度は宮城県から教育旅行で訪れた中学生に記念品として下敷きを贈呈した。

庄内町芸術文化協会理事会、山形ふるさと塾語り部研修会に参加して研鑽を重ねている。

平成21年度の総会で表彰規定を設置し、平成23年度には7名の功労者を表彰した。しかし、事務局体制が脆弱なことから、具体的な活動に乏しく保存会相互のネットワークが希薄である。

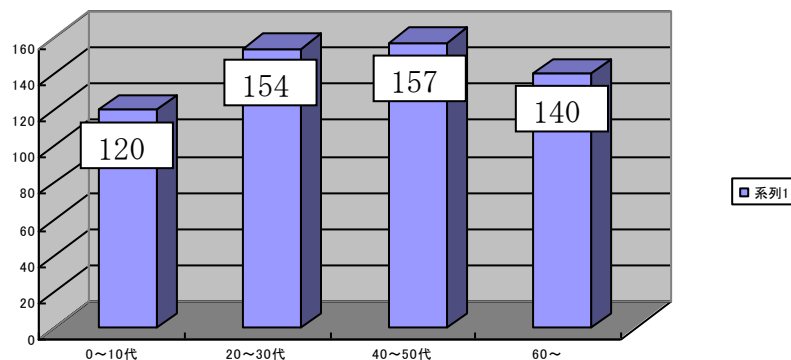
今後の事業計画としては、民間の「伝統芸能関連助成事業」を活用しての、各保存会の歴史や活動の写真を盛り込んだの冊子作成に取り組む予定となっている。

(2) 民俗芸能保存会について

ア 保存会の年代別構成員数について

継続している28保存会の年代別の人数は、0歳～10代までが120人、20代～30代までが154人、40代～50代までが157人、60代以上が140人で、合計で571人となっている。また、子供がかかっているが22保存会で、かかっていないが6保存会であった。全体的に見ると、10代まではやや少ないが、20代以降はほぼ同人数となっているのがわかる。

年代別構成員数 (人)



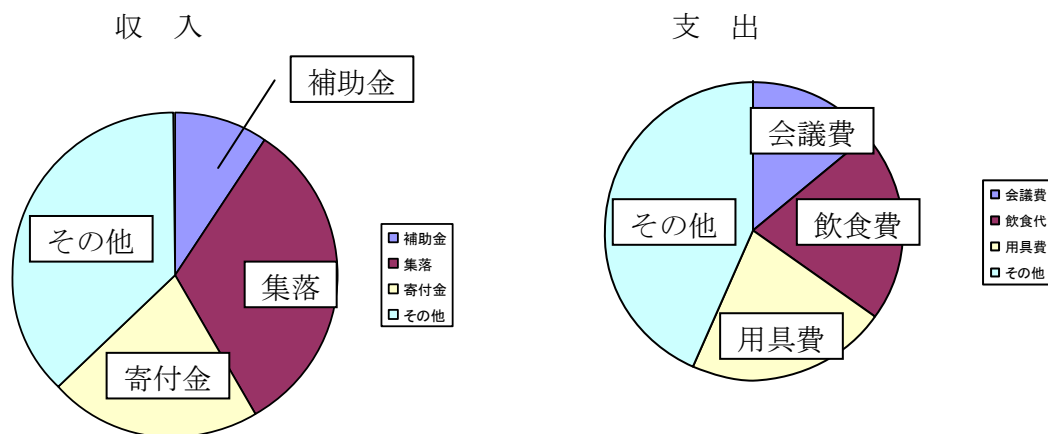
イ 保存会の運営費について

収入の内訳として、町からの補助金については各保存会に13,000円が補助されており、集落で予算計上しているところがあれば、寄付などの収入で運営している保存会もあった。また、その他の額が多くなっているのは、繰越金が多かったためである。一方支出の用具費（将来への修理費）については、各保存会と

も平成 22 年度は大きな補修がなかったのがほとんどであった。その他については、役者への謝礼、手当が含まれている。なお、次表は収入と支出をそれぞれ 4 項目で調査し項目別に総合計したものを表と円グラフにしたものである。

平成 22 年度保存会の運営費一覧 (円)

項目	補助金・交付金	集落から	寄付金	その他	合計
収入	790,764	2,881,000	1,924,000	3,355,236	8,951,000
(%)	8.8	32.2	21.5	37.5	
項目	会議費	飲食代	用具費	その他	合計
支出	950,000	1,378,000	1,532,000	3,118,000	6,978,000
(%)	13.6	19.7	21.9	44.8	



ウ 民俗芸能の始まりについて

民俗芸能の始まりについては、はっきりと伝えられているところは少なく、ほとんどがおおよそその集落に言い伝えられてきた年代となっている。

はっきりしている保存会もあるが、いずれにしてもその集落独自の歴史を記した書類といわれるものがほとんど残っていないのが実状である。

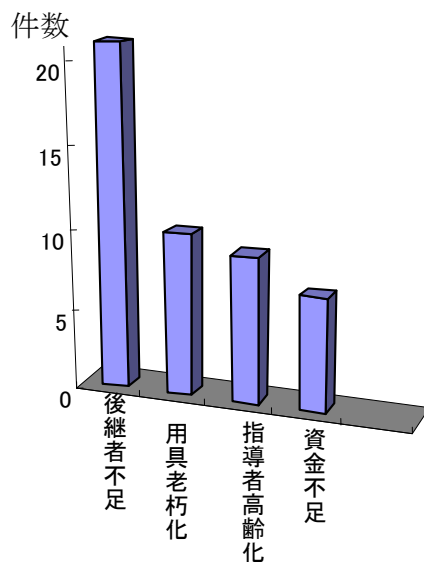
エ 記録保存について

調査した保存会では、ビデオテープでの保存が 18 保存会、DVD での保存が 4 保存会、写真集としての保存が 1 保存会、保存していないが 5 保存会であった。なお、町としては旧余目町におけるすべての保存会については、ビデオテープ化し第一公民館に保管されている。旧立川町の保存会については、教育委員会社会教育課で管理している。ビデオテープの確認をしたところ、劣化が著しいものもあった。

オ 保存会運営の悩みについて

一番多かったのは後継者不足 21 件、用具の老朽化 10 件、指導者の高齢化 9 件、資金不足 7 件、稽古場の確保ができないと答えたのは 0 件であった。

運営の悩み (複数回答)



カ 運営の継続可能について

継続可能 13 件、継続困難 2 件、わからない 11 件であった。各保存会とも諸事情を抱えており、継続可能と答えた保存会でも今後に不安を抱いている回答もあった。

(3) 活動休止の原因について

4 保存会が休止状態であるが原因は次表のとおりである。

保存会名	休止の主な原因	今後の見通し	用具の保存場所
松ノ木肝煎神楽保存会	戸数の減少 後継者不足	周辺集落の協力があれば可能	神社に保存
木の沢獅子舞保存会	50 歳以下の後継者不足	見通しが立っていない	神社に保存し、氏子総代が管理
三ヶ沢稲荷様奴振り保存会	神社の後継者が不在	再立ち上げを検討中	神社と保存会が管理
貢地目獅子舞保存会	後継者不足	見通しが立っていない	神社に保存

(4) 町の支援について

ア 庄内町民俗芸能保存伝承協議会補助金

協議会を通じて後継者育成や保存会運営のための補助金を交付している。

平成 21 年度 407,000 円（協議会 17 千円、活動団体 30×13 千円）

平成 22 年度 381,000 円（協議会 17 千円、活動団体 28×13 千円）

平成 23 年度 381,000 円（協議会 17 千円、活動団体 28×13 千円）

イ 庄内町指定文化財補助金

指定文化財に指定されているもののみに対し、10 万円以上の経費を要する用具の新調または修理に対し、2 分の 1 以内 50 万円を限度に補助金を交付している。平成 22 年度は民俗芸能保存団体での利用はなかった。

ウ 庄内町住みやすい地域づくり活動交付金（情報発信課）

民俗芸能備品整備事業として民俗芸能に係る衣装、備品等を整備する事業であり、最近の交付金の実績は次のとおりである。（事業費の 2 分の 1 以内、100 万円を限度）

平成 21 年度交付金 413,215 円（5 集落）

平成 22 年度交付金 448,764 円（6 集落）

平成 23 年度交付金 1,513,428 円（8 集落）※平成 24 年 2 月 17 日現在

(5) 伝承活動と調査記録について

ア 伝承活動

公民館の活動として、清川公民館では獅子舞、巫女舞の伝承活動を行っている。また、立谷沢公民館では和太鼓の伝承活動を行っている。いずれも、小学 3 年生から 6 年生まで対象で、地域の行事に参加して練習の成果を披露している。

イ 調査記録

旧立川町の民俗芸能については「町の文化財（総集編）」に、旧余目町の民俗芸能については「余目町の獅子舞」「余目町の神楽」にまとめられており、それぞれ庄内町立図書館に保管されている。

(6) 民間の支援について

民間の助成事業については、各種財団等からの助成（資料 3 参照）があり、募集に関しては社会教育課でそのつど通知している。最近の実績は次のとおりである。

平成 21 年度助成 100,000 円

（財団法人丸高歴史文化財団から西袋獅子踊保存会へ獅子頭の補修）

平成 22 年度助成 300,000 円

（財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団から西袋獅子踊保存会へ獅子頭の補修）

平成 22 年度助成 100,000 円

（公益信託庄内銀行ふるさと創造基金から西野神楽保存会へ演目の復活に向けた伝承）

[課 題]

(1) 保存会のネットワークづくり

庄内町民俗芸能保存伝承協議会を組織しているが、事務局体制が脆弱なことから、具体的活動に乏しく保存会相互のネットワークづくりが急務である。

庄内町民俗芸能保存伝承協議会からのアンケート調査によると、「保存会の運営の悩みについて」の項目では次の(2), (3), (4), (5)の4点が挙げられた。各保存会の実態を当委員会で検証した結果、同様のことが課題となった。

(2) 後継者不足の解消

少子高齢化、職業の多様化などにより、後継者不足は全保存会の最大の悩みである。

(3) 用具の老朽化への対応

用具の補修、更新に多額の費用を要するため苦慮している。

(4) 資金不足への対応

運営費に余裕がなく、発表の場などにかかる経費が捻出できない。

(5) 指導者の確保

高齢化や後継者不足により、指導者の確保が困難である。

(6) 記録保存の対応

保存管理が一元化されておらず、しかもビデオテープでの保存のため劣化が進んでいる。

[意 見]

(1) 保存会のネットワークづくり

先進地（遊佐町）での民俗芸能団体の調査をしてみると、民俗芸能保存協議会の事務局は教育委員会が担っていた。その内容は、民俗芸能保存協議会総会・役員会（4回）の開催資料の作成、助成金に対する申請手続、アドバイス等、また、民俗芸能公演会開催への事務局として全面的な協力をしていた。地元の各民俗芸能団体間の交流や他市町村への呼びかけなど、保存伝承のためのネットワークが構築されていた。

庄内町民俗芸能保存伝承協議会は、事務局体制が弱く、保存会同士の交流が希薄である。

民俗芸能を後世に伝えるためにも、保存会のネットワークの強化に向けて、庄内町民俗芸能保存伝承協議会と教育委員会が連携して次の事項について事業を展開すべきである。

ア 庄内町民俗芸能保存伝承協議会は会長が一人で事務を担っていた。負担軽減を図ることなどから、自立し自主的に事業展開できる組織になるまで教育委員会は事務的支援をすべきである。

イ 庄内町民俗芸能保存伝承協議会と教育委員会を中心に後継者対策、指導者の確保や資金の確保などについて情報交換を行うべきである。

ウ 各分野で実施している新春懇談会等のお祝い事業、あるいは、芸術文化祭などで発表の場を設けるべきである。

エ 他市町村での伝統行事の視察や講演会などへの派遣を行い、研修の機会を与えるべきである。

オ 町の広報を活用し、広く町民への理解と周知を図るべきである。

各保存会にはそれぞれの事情があり、例えば神事の場合、神社が主体となっていることから、町で直接関与することが困難である。そのため、庄内町民俗芸能保存伝承協議会を通して(2)～(5)の課題を整理すべきと考える。

(2) 後継者不足の解消

ア アンケート調査でわかるように、後継者不足は全保存会の最大の悩みである。その対策として、例えば公民館の活動として行われている清川公民館での獅子舞や巫女舞、立谷沢公民館での和太鼓のように、保存会の枠を越え公民館と連携し、地域全体で考えていく仕組みづくりが必要である。

イ 地域の子供たちに対し、家根合獅子舞保存会のように、民俗芸能の解説などを交え、わかりやすく鑑賞させ、地域の歴史理解と郷土愛を育むべきである。

(3) 用具の老朽化への対応

町で実施している助成制度で特に庄内町住みやすい地域づくり活動交付金(事業費の2分の1以内、100万円を限度)の活用と民間財団等の助成制度を活用し促進すべきである。(資料3参照)

(4) 資金不足への対応

各保存会では、用具の老朽化、更新などへの資金積み立てを行っているが、運営費に余裕がないため発表の場や研修等にかかる費用は町で助成すべきである。

(5) 指導者の確保

指導者は保存会の中から育つものであり、将来の指導者として育成するため、例えば山形ふるさと塾語り部研修会への派遣等に対し、積極的に参加させるべきである。

(6) 記録保存の対応

ア 記録保存されていない民俗芸能は映像を撮り、記録保存されている民俗芸能と合わせてデジタルデータ化し、文化財として一元管理すべきである。

イ 所作と音楽については、より細かな映像を撮り、正確に継承すべきである。

今回の民俗芸能の保存・伝承についての調査では、庄内町民俗芸能保存伝承協議会や担当課からの聞き取り、また、各保存会へのアンケート調査を実施した。特に、アンケート調査の結果を見てみると、どの保存会でも後継者不足により保存伝承のための維持継続が難しい状況になっていた。

本町における保存伝承のためのネットワークづくりを図るためには、庄内町民俗芸能保存伝承協議会に対して、現状において町当局の積極的な支援が必要であるが、将来的に自立した組織に育成することが望まれる。

民俗芸能保存団体の実態に関するアンケート

団体名 ()

1 保存会の構成員数は？

0歳～10代 20代～30代 40代～50代 60代～ 合計
 (人) (人) (人) (人) (人)

2 昨年度の保存会の運営費は？

※ 決算書を添付していただければ記入の必要はありません。

※ 決算書が無い場合はご記入ください。

収 入	町から	集落から	寄付金 (個人、企業)	その他 ()	合 計
	円	円	円	円	円
支 出	会議費、事務 費、通信費等	飲食費	用具費	その他 ()	合 計
	円	円	円	円	円

3 いつごろから始めましたか？

(年)

4 映像を記録保存していますか？

(している ・ していない)

している場合は何ですか (ビデオテープ ・ DVD ・ その他)

5 保存会の運営における悩みはありますか？(複数でも可)

(後継者不足・指導者の高齢化・資金不足

用具の老朽化・稽古場の確保)

その他 ()

6 今後も保存会の運営を継続していくことは可能だと思いますか？

①可能である ②わからない ③不可能である

②と③の場合その理由は ()

7 民俗芸能の保存・伝承について町に望むことはありますか？

8 その他

ご協力ありがとうございました

民俗芸能保存団体の実態に関するアンケート調査結果

【余目地域】

保存会名	構成員数	収入(円)	支出(円)	始まり年代	記録保存	運営上の悩み	継続できますか	祭典日
宮曾根神楽保存会	18人	363,000	324,000	1804年	DVD	後継者不足	わからない	5月28日
家根合獅子保存会	36人	880,000	310,000	不明	ビデオ	後継者不足	可能	4月24日
西野神楽保存会	24人	179,000	166,000	不明	ビデオ、DVD	わからない	可能	4月第1日曜
余目新田獅子舞保存会	18人	378,000	334,000	1751年	ビデオ	後継者 用具老朽	可能	5月30日
茗荷瀬神楽保存会	41人	140,000	110,000	不明	ビデオ	後継者 指導者高齢	わからない	5月最終土曜
朝丸山民俗芸能保存会	9人	—	—	不明	ビデオ	後継者不足	わからない	6月15日
吉岡・生三獅子舞保存会	22人	375,000	345,000	不明	ビデオ	後継者 資金不足	可能	8月15日
余目大名行列保存会	50人	1,133,000	990,000	不明	ビデオ	後継者 用具老朽	わからない	9月15日
提興屋神楽保存会	17人	193,000	101,000	1917年	ビデオ	後継者不足	困難	5月5日
跡神楽保存会	33人	183,000	183,000	1660年	ビデオ	無し	可能	4月25日
千河原奴神楽保存会	27人	169,000	—	不明	カセット	後継者 用具老朽	わからない	8月17日
南野御神楽舞保存会	15人	287,000	240,000	1859年	ビデオ	後継者 指導者高齢	わからない	8月17日
四ヶ村獅子踊保存会	32人	360,000	283,000	1741年	ビデオ、DVD	後継者 用具老朽	可能	8月15日
廻館供奴保存会	32人	323,000	317,000	1589年	ビデオ	後継者不足	可能	8月16日
西袋獅子踊保存会	35人	450,000	450,000	不明	ビデオ、DVD	指導者高齢 資金不足	可能	8月13日
古関獅子舞保存会	23人	641,000	470,000	1800年	DVD	後継者 資金不足	わからない	8月15日

民俗芸能保存団体の実態に関するアンケート調査結果

【立川地域】

保存会名	構成員数	収入(円)	支出(円)	始まり年代	記録保存	運営上の悩み	継続できますか	祭典日
今岡神楽保存会	15人	63,000	63,000	1598年	ビデオ	後継者不足	可能	8月15日
八幡神社神輿渡御行列	20人	208,000	207,000	1860年	ビデオ	後継者 資金不足	わからない	8月21日
馬場神楽保存会	85人全戸	73,000	65,000	不明	ビデオ	後継者 資金不足	わからない	8月20日
狩川奴振り保存会	24人	218,000	210,000	1881年	無し	後継者 資金不足	困難	8月21日
囲町手踊り保存会	16人	200,000	43,000	不明	無し	後継者不足	可能	8月27日
清川獅子舞・神楽舞保存会	16人	58,000	50,000	不明	ビデオ	後継者 用具老朽	わからない	8月19日
本町山車保存会	9人	1,162,000	1,018,000	不明	無し	後継者 資金不足	わからない	8月18日
新屋敷山車保存会	未回収							
三部落山車保存会	未回収							
五部落山車保存会	16人	616,000	609,000	不明	無し	後継者不足	可能	8月18日
川端山車保存会	13人	142,000	83,000	不明	無し	後継者 用具老朽	可能	8月18日
清川塞の神保存会	15人	148,000	78,000	不明	ビデオ	後継者不足	可能	1月3日

伝統芸能関連助成事業一覧

資料3

	企業及び団体名	名称	助成対象	金額	備考	H23
1	文化庁文化財部伝統文化課	地域伝統文化総合活性化事業	普及啓発活動、人材育成、用具の修理、原材料の確保、記録作成、調査研究			
2	財団法人丸高歴史文化財団	地域文化活動助成事業	歴史に関する調査、研究 伝統芸能の保存 伝統工芸の維持発展	10万～20万円	応募締切 9月頃	○
3	公益財団法人伝統文化活性化国民協会	伝統文化活動支援事業	神楽の継承、発展活動に係る伝承者等の養成活動	上限50万円	応募締切 9月頃	○
4	独立行政法人日本芸術文化振興会	地域の文化振興等の活動	文化会館公演活動、美術館展示活動、アマチュア等の文化団体活動、歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動、民族文化財の保存活用活動、伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	助成対象経費の1/2以内	応募締切 10月～11月頃	○
5	財団法人沖永文化振興財団	地域文化活動助成事業	伝統民俗芸能公演又は公開事業、伝統民俗芸能の保存伝承事業	旅費、物品費、打ち合わせ会議費、通信運搬費	応募締切 1月頃	
6	財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団	地域の伝統文化継承活動費用助成	「地域の民族芸能」(民俗行事・民俗音楽を含む)および「地域の伝統的生活技術(民具製作技術・伝統工芸を含む)の継承活動、特に後継者育成のための諸活動	民俗芸能: 上限70万円/ 民俗技術: 上限40万円	応募締切 1月頃	
7	公益信託荘内銀行ふるさと創造基金	荘内銀行ふるさと創造基金	学校における教育的な活動、地域住民と一体となった社会教育的な活動、県内に伝わる文化的な活動	10～40万円	応募締切 3月頃	
8	財団法人地域創造	①地域の文化・芸術活動支援事業 ②芸術提供・共催事業 ③地域伝統芸能等保存事業	③地域伝統芸能等保存事業 (映像記録保存、地域伝統芸能継承者(青少年等)育成事業)	いずれも8/10以内、映像記録保存事業: 上限320万円/ 地域伝統芸能継承者(青少年等)育成事業: 上限100万円	応募締切 9月頃	
9	財団法人日本教育公務員弘済会山形県支部	日教弘奨励金事業	学校教育、社会教育等の各分野において、地域の社会・教育・文化の向上発展に寄与し、将来においても期待される有益な活動	上限50万円	応募締切 9月頃	